

ながさか

長坂

やすし

康史さん(53)



この人

2013年のノーベル物理学賞で注目された、ものの質量の起源となる「ヒッグス粒子」。その存在を確かめる実験のデータ解析に携わった素粒子物理学、情報工学の研究者だ。「学生を育て、社会に送り出すことにも強い達成感を覚える」と、大学での教育

に情熱を傾ける。

時計やテープレコーダーを分解する探究心の強い少年は、自然と物理学を志した。ヒッグス粒子研究の国際チームには1998年から参加。01年に広島工業大に着任後も年数回、研究拠点のスイスに通い、データ収集を担う日本グループを率いた。「世界と将来を見据える心構えがあれば、どこにいても国際的な研究はできる」と実感を込める。海外の研究者からは、歴史や政治の知識の幅、深さに刺激を受けた。その経験を基に20年度から、3、4年生も教養科目を必修にするなどカリキュラム改革に学長として力を注ぐ。

日本と文化の異なる米国で温水洗浄便座がヒットしな

った話をよく引き合いに出す。「理系の知識だけではなく、社会とつながる意識が欠かせない」。学生には「一見無駄と思えることもやってみよう。思い込みを排し、多くの方向や視点から物を見よ」と説く。

自らを評して、凝り性でとことんやる性格。「まだまだ情報通信技術で社会を豊かにできる」と、研究への意欲もみなぎらせる。人工知能(AI)でサイバー攻撃を防ぐ仕組み、現場の空気が伝わるテレビ電話などテーマは尽きない。

趣味は宮沢賢治を読み解くこと。シヨスタコービッチなどのクラシック曲を愛聴する。甲府市出身。広島市佐伯区で暮らす。(馬場洋太)